

看護学科

講義要綱

科目	看護学概論	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 佐野 繁子				
授業目的	看護の基盤となる理論・歴史・原理について学ぶ。				
到達目標	<p>「看護とは」を知り、看護の目的・対象・方法について理解し、看護専門職者としての役割を理解する。 看護の定義、目的、対象、方法について学び、専門職である看護職者の役割について考える。 看護の歴史的背景を知り、近代看護の母と言われる「ナイチンゲール」の業績について学ぶとともにヴァージニア・ヘンダーソンの看護理論を学ぶ。また、看護制度の成り立ちを知り、看護の動向について学ぶ。</p>				
授業概要	<p>講義や演習を通して、常に「看護とは何か」を問い続けます。この科目の終了時には、書き溜めたラベルをプロセスチャートにまとめ、現時点での自分なりの「看護とは何か」の答えを見出します。また、同じ仲間と看護について考えていきます。 ＊『看護師の実践能力 I 群ヒューマンケアの基礎能力』を養います。</p>				
授業方法	講義・グループワーク				
授業展開	回数	内容		準備等	
	1	「看護とは」を学ぶにあたり、看護を目指す自己を見つめる			
	2	「看護の本質」 ・看護の原点・看護の歴史・看護の定義 ナイチンゲール・ヘンダーソン等		課題『看護覚え書き』を読みこもう！	
	3	看護の役割と機能			
	4	看護の質の保障 ・看護の機能と役割拡大 ・看護の継続性と情報共有			
	5	グループワーク テーマ「人間とは」 ・看護の対象としての人間 ・人間のニードに関する理論 マズローの欲求段階説 ・看護の対象としての家族 ・家族の機能 ・看護の対象としての集団・地域			
	6	グループワーク テーマ「健康とは」 健康の捉え方、健康の定義 ・障害の定義 ・国民全体の健康状態に関する統計 ・現代家族のライフサイクル		入学前課題で行った内容読み返し持参	
	7	人々の生活と健康 グループワーク テーマ「看護を目指すものとして考えたこと」 【演習】「統計資料から看護を目指すものとして見えてきたもの」		課題『看護の基本となるもの』を要約する	
	8	職業としての看護 ・看護職の養成制度と就業状況			
	9	看護職の教育とキャリア開発			

授業展開	10	看護における倫理 職業倫理、倫理原則、看護者の倫理綱領	
	11	サービスとしての看護 ・看護サービス提供の場	事前課題「看護理論家の理解」
	12	グループワーク 主要な看護理論家の看護概念の理解① アイダ・ジーン・オーランド アーネスティン・ウィーデンバック ジョイス・トラベルビー、 ドロセア・E・オレム、 シスター・カリスタ・ロイ パトリシア・ベナー	
	13	主要な看護理論家の看護概念の理解② クラスで共有	課題提示 「学びのプロセス図解 (プロセスチャート) の作成」
	14	看護をめぐる制度と政策 看護について考えたプロセスチャートを用いて 仲間に発信・共有	グループワーク
	15	終了試験	
履修条件	<p>本校はすべて必修科目であるため、履修条件はありません。学生に望むこと、たとえば事前学習に何をするか、新聞スクラップで注目してほしいことは何か、授業参加にあたって自己の意見を積極的に発言していくなど、望む姿勢を大切にしてください。</p> <p>講義を聴くだけでなく、テキストや紹介する参考文献を読み、自己の考えを深めるようにして下さい。また、同じ仲間と看護について考えていきますので、積極的に意見交換をして考えを深めていきましょう。</p>		
評価方法	<p>筆記試験（小テスト 10点 ・ 終了試験 70点） 課題レポート 10点 授業へ参加姿勢 10点</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 フロセンス・ナイチンゲール看護覚え書き 小玉香津子他訳 日本看護協会出版会 V. ハンダーソン 看護の基本となるもの 湯槇ます訳 日本看護協会出版会 *入学前課題図書 新版 愛、深き淵より 星野富弘著 学研プラス</p>		
参考書	<p>ナイチンゲール 看護覚え書 小玉香津子訳 現代社 ナイチンゲール著作集第一巻～三巻 湯槇ます監修 現代社 V・ハンダーソン選集 小玉香津子訳 医学書院 看護学基礎テキスト第1巻～4巻 野嶋佐由美他 日本看護協会出版会 ナースが視る人体 薄井坦子 講談社 生きることは尊いこと 西岡雅子 医学書院</p>		
備考			

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法 I	単位	1	開講時期	1 年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 和田 愛 (4) 看護師 木下真理子 (12) 看護師 今井弓珠 (8) 感染管理認定看護師 伏見 華奈 (6)				
授業目的	【看護技術・観察】 (4) 看護技術とは何か、どのように学習していくか知る。 看護における観察とその意義について理解する。 【話す・聞く】 (12) 看護における効果的なコミュニケーションを理解する。 【感染予防】 (14) 感染予防の技術について学ぶ 【看護師教育の技術項目】 11-57~61				
到達目標	看護場面によくみられるコミュニケーションの実際を通し、効果的なコミュニケーションを体験的に学び、自己のコミュニケーションにおける傾向を知る。 【看護師教育の技術 単独で実施】 57スタンダード・プリコーション 58必要な防護用具の選択・着脱 60感染性廃棄物の取り扱い 61無菌操作				
授業概要	最初に看護の方法の学習方法など総論として講義する。 感染防止の技術・コミュニケーションの単元で構成されている。看護するうえで共通して必要な技術を講義・演習をとおして学ぶ。				
授業方法	講義・演習				
授業展開	回数	内容	備考	担当者	
	1	看護の方法総論1 看護技術とは 看護の方法の学習方法		和田 愛	
	2	看護の方法総論2 看護と観察		和田 愛	
	3	感染防止の基本知識 感染成立の条件 院内感染と防止策		今井 弓珠	
	4	感染予防策 スタンダードプリコーション 感染経路別予防策		伏見 華奈	
	5	演習 衛生学的手洗い 個人防護具の着脱 滅菌手袋装着		伏見 華奈	
	6	臨床での感染対策の実際 (院内)		伏見 華奈	
	7	洗浄・消毒・滅菌 基本知識 無菌操作の基礎知識		今井 弓珠	
8	演習 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い		今井 弓珠		

	9	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素とプロセス 関係構築のためのコミュニケーションの基本		木下真理子
	10	聴くとくこと、伝えるということ 看護場面におけるコミュニケーションの実際		
	11	効果的なコミュニケーションを考える プロセスレコード		
	12	プロセスレコードを用いた検討	プロセスレコード 検討会	
	13	効果的なコミュニケーションを考える		
	14	看護場面に合わせたコミュニケーションの 実践	ロールプレイ 意見交換 (実習室)	
	15	終了試験		今井 弓珠
履修条件	ここで学ぶ基礎的知識はこれから看護を考えていく上での基本となります。知識を確実にもち、実践につながるようにしていきましょう。			
評価方法	終了試験及び提出物			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
参考書				
備考				

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法Ⅱ	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 和田 愛				
授業目的	看護の基本となる共通技術を学ぶ。				
到達目標	看護の基本的な共通技術となる観察、記録、看護過程について理解する。				
授業概要	共通基本技術はどの分野のどの経過の看護をするにも必要とされる基本的な技術である。ここでは、生命を維持する働きの観察の視点と方法、看護過程・リフレクションの3つの単元を共通基本技術としてまとめ、講義・演習を行う。 【看護師教育の技術項目】50：バイタルサインの測定				
授業方法	関連する形態機能学やフィジカルアセスメントとつなげて考えていけるよう授業の時期を設定しています。看護の専門的思考の基本をここでおさえ、看護過程の演習へつなげます。				
授業展開	内容・準備				
	1	観察の視点：ヘンダーソンの基本的枠組み「呼吸をする」「体温を正常範囲内に維持する」			
	2	正確に測定することの意義・看護における記録			
	3	観察の方法（脈拍測定・体温）			
	4	観察の方法（呼吸音の聴取）			
	5	看護過程 4つの構成要素・問題解決思考			
	6	看護過程 クリティカルシンキング			
	7	看護過程 倫理的配慮と価値判断			
	8	看護過程 リフレクション①リフレクションの思考			
	9	看護過程 リフレクション②リフレクションの記述方法			
	10	看護過程 リフレクション③看護におけるリフレクション			
	11	看護過程 看護過程の各段階①情報の分析			
	12	看護過程 看護過程の各段階②問題の明確化			
	13	看護過程 看護過程の各段階③看護計画・実施・評価			
	14	看護における記録			
15	終了試験				

履修条件	看護の思考の基礎を学びます。 バイタルサインの観察技術は、患者さんの状態を知る大切な基本技術です。技術を手順で覚えようとしても身につきません。行為の意味を理解した上で、繰り返し練習をして正確な技術の習得を目指しましょう。また、正確に観察するためには物品の管理も重要となります。使用する器具の自己管理を確実にしましょう。
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
参考書	
備考	

看護学科 講義要綱

科目	看護の方法Ⅲ	単位	1	開講時期	1年前期		
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修		
担当者	看護師 今井 弓珠 (18) 笹田 恵 (12)						
授業目的	人間にとっての「食」と「排泄」の意義と必要な機能を理解し、援助の必要性と技術を学ぶ。						
到達目標	患者の状況に合わせて適切な食と排泄の援助を提供できる思考と技術を身につける。患者の身体・精神状態にあった排泄援助について、アセスメントと計画を立てる。 羞恥心に配慮しながら安全な排泄援助について考える。 【看護師教育の技術項目】2-1~6・3-7~11						
授業概要	人間の生命維持に必要な栄養・食事、排泄を理解し、対象にとっての食事・排泄の意義を理解した食事・排泄援助の実際を学ぶ。 事例に合わせた食事・排泄援助の方法を考え実施します。対象が安全で安楽に、食事・排泄のニードが満たされるための援助について考え実施できるようにする。						
授業方法	対面授業と演習で実施。演習は必要に応じクラスを2分割して行う。						
授業展開	回数	内容	準備等				
	1	人間にとって食べること 食事の機能、意義	笹田 恵				
	2	機能障害が食事のニードに及ぼす影響 食事援助の実際①					
	3	患者の安全・安楽・食事のニードが満たされるための工夫 「食事介助をする、受ける体験」				演習	
	4	食事援助の実際② 演習①をふまえて事例に沿った食事援助の計画、実施、評価				演習	
	5	非経口的栄養摂取とは					
	6	非経口的栄養摂取の援助				演習	
7	自分の排泄について考える						

	8	排泄の援助を計画する上で必要なアセスメントについて考える		今井弓珠
	9	色々な排泄方法について理解する ポータブルトイレ・尿器・便器・おむつ どの道具がどんな人に適しているのか		
授業展開	10	演習 床上排泄の援助の実際	演習	今井弓珠
	11	尿器・便器 おむつの装着体験		
	12	排便障害時の援助について理解する 便秘改善・浣腸・摘便 排尿障害時の援助について理解する 導尿（一時的・持続的）		
	13	演習 排便障害時の援助の実際：浣腸	演習	
	14	排尿障害時の援助の実際：導尿		
	15	終了試験		
履修条件	<p>看護師として患者に適した食事援助をする事の意義について考えながら授業に臨みましょう。 対象にとっての食事・排泄の意義を理解し「食」と「排泄」の行為、他人にゆだねる苦痛は計り知れない。 ・排泄は、人間の尊厳にかかわる援助なので、真摯に取り組んでほしい。</p>			
評価方法	出席状況 課題の提出状況・内容 筆記試験100点：食事の援助50点 排泄の援助50点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 写真でわかる臨床看護技術① 本庄恵子 インターメディカ 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院			
参考書	健康の地図帳 大久保昭行 講談社			
備考				

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法Ⅳ	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 亀山 美穂 (20) 笹田 恵 (10)				
授業目的	環境の意義と環境調整に必要な知識・技術を学ぶ。 人間の暮らしを作り出す日常生活行動について、からだの動きに注目して学ぶ。 また、運動と休息のバランスを維持することの意義を理解し、人間の動く・眠るを支える援助の方法について学ぶ。				
到達目標	快適な療養環境の整備 活動と休息の援助を安全安楽に実施する 【看護師教育の技術項目レベルⅠ】 1快適な療養環境 2 臥床患者のシーツ交換 13車椅子での移送 14歩行・移動介助 15移乗介助 16体位変換・保持 18ストレッチャー移送 69安楽な体位の調節 70安楽促進・苦痛の緩和のためのケア 71精神的安寧を保つためのケア				
授業概要	環境・動く眠るの2つの単元で構成する。健康と人間の生活を2つの観点から日常生活の行動を意識しながら学ぶ。				
授業方法	対面授業、演習。演習は必要に応じクラスを2分割して行う。				
	回数	内容	準備等		
授業展開	1	環境とは 看護における生活環境	笹田 恵		
	2	リネン類の取り扱い			
	3	病床の作り方 ベッドメイキング			
	4	臥床患者のリネン交換			
	5	ベッド周囲の環境整備・事故防止の技術			
	6	運動と休息のバランス 日常生活行動、姿勢と体位、関節可動域	亀山 美穂		
	7	ボディメカニクス 理学的な視点を生かした身体の動かし方 人間の自然な動き			
	8	体位変換			
	9	人間の自然な動きを活用した移動の援助			
	10	車椅子を活用した移乗と移送			

	11	ストレッチャーを活用した移動、歩行の介助
	12	人間にとっての眠りと休息
	13	安楽確保の援助①褥法、精神的安寧を保つケア
	14	安楽確保の援助②体位保持、安楽な体位の調整
	15	修了試験
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師としてその人にあつた環境に整える事の大切さを意識し授業に臨みましょう。 ・実習において、受け持ち患者のベッドとその周囲の環境整備が自信を持ってできるような確実な技術を身につけましょう。 ・活動に関する基本的な技術は、学生同士で安全に実施できるよう根拠を理解し、確実に身につけましょう。 ・演習や実習で出会う対象者をイメージし、技術のスキルを目指していきましょう。 	
評価方法	出席状況、授業姿勢、課題内容、筆記試験、技術試験、レポート提出について総合的に評価します。 配点：環境 30点（筆記試験20点・技術試験10点）動く眠る70点	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院	
参考書	適宜、資料で提示	

看護学科 講義要綱

科目	看護の方法Ⅴ	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 亀山 美穂 (20) 西谷 沙紀 (10)				
授業目的	人間にとって清潔を保持することや衣生活を整えることの意義を学ぶ。 衣生活を整えるために必要な知識・技術を学ぶ。 清潔を保持するため必要な知識・技術を学ぶ。				
到達目標	人間にとっての清潔の意義について理解し、患者の状況に合わせて援助を提供できるようその方法について計画・実施する。 【看護師教育の技術教育 単独で実施】 19手浴足浴・20整容・21点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換・24清拭・25洗髪・26口腔ケア・27点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換				
授業概要	私たちが日常生活で行っている『清潔行動』を意識し、同じ行動、個々に異なる行動を共有し、清潔への援助へつなげるよう学習する。 友達同士での練習、患者体験を通して、自分で清潔行動がとれないときの気持ちや人からの援助を受けることに対する思いなどを考える。				
授業方法	対面授業・必要に応じクラスを2分割して演習を実施する。				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	身体の清潔・衣生活の意義 ・清潔・衣生活に必要な皮膚の構造と機能 ・洗浄剤の種類と選択	・日常生活アンケート ・清潔・衣生活の基礎知識	亀山 美穂	
	2	入浴の効果と看護 ・療養生活における衣生活の条件と種類 ・和式寝衣の実際、清潔・衣生活に必要な物品	・皮膚の構造 ・清潔援助の影響、効果、配慮について ・衣生活について		
	3	演習：寝衣交換	・寝衣交換の一般的知識		

	4	演習：寝衣交換 (点滴・ドレーン等あり)		西谷 沙紀
	5	演習：お湯の効果的な使用方法	・1・2講の知識 ・湯の作用や特徴	
	6	演習：陰部洗浄	・陰部洗浄の一般的知識	
授業展開	7	演習：口腔ケア	・口腔ケアの一般的知識	西谷 沙紀
	8	演習：足浴の実践	・足浴の一般的知識	亀山 美穂
	9	演習①：清拭について 演習②：清拭（顔・上肢）	・清拭、寝衣交換の一般的知識 ・テキストの指定のQRコード動画を視聴	
	10	演習：臥床患者への全身清拭と病衣の交換 ※前回の演習の振り返りを活かして実施		
	11・12	演習：臥床患者への洗髪（結髪含む） 洗髪シート・ケリーパット、洗髪車の、いずれかを使用	・洗髪の一般的知識 ・テキストの指定のQRコード動画を視聴	
	13・14	技術のまとめ 事例の患者に対して、清拭と寝衣交換を実施する	・1年間で学んだ看護技術の集大成として、事例の患者への援助を考え、実践する	
	15	終了試験		
履修条件	皮膚・骨・筋肉の形態機能、ボディメカニクスの知識やコミュニケーション力、人の清潔習慣や清潔に関する意識が必要となってきます。技術の習得には、友達同士での練習が不可欠です。自らの患者体験を通して、自分で清潔行動が取れないことに対する思いや人からの援助を受けることに対する思いなどを考え、自分の援助につなげてください。			
評価方法	① 筆記試験…80%の配点 ②演習・課題レポート（事前・事後レポート）の提出 ③授業へ参加する態度や出席率 ②と③で20%の配点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
参考書				
備考				

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法VI	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 加茂川 (16) 笹田 恵 (14)				
授業目的	与薬・検査における基礎的知識・技術を学ぶ。				
到達目標	1. 与薬援助時の看護師の役割・技術について理解する。 2. 診療検査時の看護の役割・技術について理解する。				
授業概要	形態機能学の知識を活かしながら、安全・安楽に治療検査が受けられるよう看護師に必要な知識と技術を講義・演習を通して習得する。演習は単独で実施できるように教員が複数でサポートしながら進める。 看護師教育の技術項目：38経口薬の投与 39経皮・外用薬の投与 40坐薬の投与 53検体（尿、血液等）の取扱い 55静脈血採血 56検査の介助 64患者の誤薬防止策の実施				
授業方法	講義・演習（事例検討・患者・看護師役を交代しながら演習する）				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	グループワーク：安全に与薬するために		加茂川	
	2	与薬における看護師の役割、	演習		
	3	経口的与薬の方法と注意点	講義演習		
	4	直腸内与薬、点眼	演習		
	5	吸入、点耳、点鼻	演習		
	6	貼付・塗布・塗擦	講義		
	7	創傷管理	演習		
	8	検査とは		笹田 恵	
	9	検査における看護師の役割			
	10	検体検査とその扱い			
	11	静脈血採血について	講義演習		
	12	静脈血採血	演習		
	13	測定			
	14	生理検査			
15	終了試験（筆記）		加茂川		

履修条件	形態機能学の知識をいえるよう復習しておくこと
評価方法	出席日数・授業態度（演習への参加姿勢を含む）・レポート・筆記試験
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 写真でわかる臨床看護技術① 本庄恵子 インターメディカ
参考書	
備考	

看護学科 講義要綱

科目	看護の方法Ⅶ	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 加茂川 将美				
授業目的	ヘルスアセスメントについて看護における重要性、フィジカルアセスメントの関係性を理解し、健康の査定を行うための具体的な方法を学ぶ。				
到達目標	問診・視診・打診・触診・視診・聴診の技術を活用して得られた情報から対象の身体状態をアセスメントできる。				
授業概要	対象の身体状態をアセスメントするための問診・視診・打診・触診・聴診の技術の方法を学ぶ。 血圧測定ではチューターを決め個人、グループで技術の習得を目指す。				
授業方法	講義・演習				
授業展開	回数	内容	師教育の技術	備考	
	1	フィジカルアセスメントとは	52：フィジカルアセスメント	講義	
	2	基本診断技術 (問診・視診・打診・触診・聴診)	51：身体測定	講義	
	3	運動機能のフィジカルアセスメント	52：フィジカルアセスメント	講義・演習	
	4	腹部のフィジカルアセスメント	52：フィジカルアセスメント	講義・演習	

	5	循環機能のフィジカルアセスメントに活用する 血圧測定	ト 50：バイタルサイン	講義・演習
	6	呼吸・循環機能のフィジカルアセスメント	52：フィジカルアセスメント	講義
	7	呼吸・循環機能のフィジカルアセスメント	ト	演習
	8	終了試験		
履修条件	<p>看護の対象を把握し、看護の必要性を導くための大切な技術となります。既に学んでいる形態機能学の知識を十分に振り返り、人体の構造をイメージしながら、講義・演習に臨んでください。実際に学生同士で患者役、看護師役となって演習を行います。フィジカルアセスメントを行うために必要な問診・視診・打診・触診・聴診の技術を学びます。</p>			
評価方法	<p>終了試験、課題学習の提出状況・内容、出席状況（出席日数・授業度）・グループワークへの参加状況により評価を行います。</p>			
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院</p>			
参考書	<p>はじめてのフィジカルアセスメント 第2版 横山美樹 メディカルフレンド社 目と手と耳でここまでわかる写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス 守田美奈子 インターメディカ 看護がみえる③フィジカルアセスメント 岡庭 豊 メディックメディア</p>			

看護学科 講義要綱

科目	看護過程演習	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 木下真理子				
授業目的	事例を用いて看護過程を展開し、看護の専門的思考について学ぶ。				
到達目標	看護の考え方を学び、事例展開することで看護に必要な看護過程の理解を深める。				
授業概要	<p>人間の心理・社会的背景、基本的欲求、生理機能の障害、生活の障害などの視点から、看護師として患者を理解する方法を学ぶ。そして、看護問題の明確化、看護計画立案を行い、根拠のある看護援助方法を見いだす。さらに援助の評価方法を学び、より質の高い援助を実施するための思考を事例を通して学ぶ。理解を深めるためにグループワークも活用します。</p>				
授業方法	授業と演習を合わせて実施する予定です。				
	回数	内容	準備等		
	1	看護過程5つの要素 問題解決過程と看護過程、リディカルシンキング、倫理的配慮と価値判断、レクシオン、看護過程の段階	ク リフ	課題提出	
	2	事例展開 アセスメント 気づき、情報収集、ハンダーソンの看護過程（基本的欲求）	課題提出		
	3	事例展開 アセスメント 情報の分析 基本的欲求に基づくアセスメント 規準や根拠に基づく論理的思考を用いる	課題提出		
	4	事例展開 アセスメント 情報の分析 基本的欲求に基づくアセスメント(GW)	課題提出		

授業展開	5	事例展開 アセスメント 対象の全体像を把握する（情報の統合化） 関連図の書き方	課題提出
	6	事例展開 アセスメント 対象の全体像の把握 関連図 GW	課題提出
	7	事例展開 看護問題の明確化 看護問題と看護診断、問題の種類、表記方法、優先順位	課題提出
	8	事例展開 看護問題の明確化 看護問題を考える GW	課題提出
	9	事例展開 看護計画 期待される成果の明確化、看護計画の立案、看護計画の表記 クリニカルパス	課題提出
	10	事例展開 看護計画 短期目標の設定・計画立案 GW	課題提出
	11	事例展開 看護計画 短期目標の設定・計画立案	課題提出
	12	事例展開 実施・評価 看護計画を実施する（ロールプレイ） 評価	課題提出
	13	事例展開 実施・評価 評価の方法、看護記録	課題提出
	14	事例展開 評価 一連の看護過程の考察	課題提出
	15	終了試験	
履修条件	<p>根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を身につけていきます。 看護になるための専門的思考を学ぶためには、今まで学んだ知識を使い、不足している点は自分で調べ考える必要があります。どのように考えたのかを意識するために、言葉で表現していきます。普段から「調べる」、「考える」習慣を身につけ、わからないことをそのままにせず、主体的な取り組みを期待しています。 課題提出期限を守り、回を重ねるごとに学びを深めていきましょう。</p>		
評価方法	<p>1 出席状況 2 終了試験 3 事例展開の実際（課題提出物）</p>		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ		医学書院
参考書	看護の基本となるもの 看護過程に沿った対象看護	ヴァージニアハンダーソン 高木永子監修	日本看護協会出版 学研
備考			

看護学科

講義要綱

科目	地域・在宅看護論概論	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間	15	必修区分	必修
担当者	看護師 坂本希世子（11） 木下晴美（2） 介護支援専門員 松本利枝（2）				
授業目的	地域で暮らす人々について理解し、その方々のサポートについて理解する。				
到達目標	1. 地域に暮らす人々の暮らしを理解する 2. 地域・在宅看護論を学ぶ意義を理解する 3. 暮らしの中で看護を理解する 4. 地域・在宅看護の機能と役割を理解する 地域・在宅は、「暮らし」の視点が大切です。医療・看護を必要としている対象				
授業概要	はどのような暮らしをしているのか、対象とはどのような人なのかを考えていく 講義が必要になります。				
授業方法	回数	内容	準備等		

授業展開	1 2	地域・在宅看護の機能と特質 1) 担い手と看護を提供する場 2) 地域で暮らしつつけることを支援するマネジメント ・倫理と基本理念、権利保障 ・自己意思決定支援 (ACP) ・ケアマネジメント 3) 在宅看護の目的と機能 ・健康の予防・維持・増進 ・介護予防 ・インフォーマルネットワーク	坂本希世子
	3	地域・在宅看護の意義と必要性 ・地域包括ケアシステム ・自助・公助・互助. 地域・在宅看護の意義と必要性	木下晴美
	4	地域・在宅看護の対象・場の理解 ・病院 (外来・入院) 診療所 ・居宅 (自宅・施設) ・療養通所型事業所、介護施設など	坂本希世子
	5	地域・在宅看護の対象・場の理解 ・地域にある介護事業所の視点から、地域で暮らすことを考える	松本利枝
	6 7	地域・在宅看護の特徴 1) 制度と訪問看護 2) 暮らしの自立支援 3) 病状・病態の変化の予防と予測 4) 暮らしの中で起こる問題 5) チームケア 6) ケアマネジメントと看護の役割	坂本希世子
	8	まとめ	
履修条件			
評価方法		出席日数 授業態度 課題提出状況 ポートフォリオ	
テキスト		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院	
参考書			
備考			

看護学科

講義要綱

科目	地域・在宅看護論演習	単位	2	開講時期	1年後期
授業形態	演習	時間	45	必修区分	必修
担当者	看護師 玉木 恭子				
授業目的	地域で暮らす人々の「健康」にむけた暮らしを実体験から学ぶ				
到達目標	・地域で暮らす市民 (人々) の様々な生活の場と、健康に向けた暮らしの実際を理解する。 ・地域の施設のひとつである「病院」について、「暮らし・生活」の視点から理解する。				
授業概要	人々の暮らしの場である「地域」を「生活者」と「看護」の視点から学びます。「健康」に向けて人々がどのような暮らしをし、考えているのかを個人でグループで考えて深めていきます。				
授業方法	演習・見学演習・グループワーク				

	回数	内容	準備等
授業展開	1	・清水区について調べてみよう ・清水区にある様々な健康に向けた生活・サポート・取り組みについて調べ、マップを作成	1～3：清水区にある様々なサポート・取り組みについてグループワークにて深めます。
	2	・清水区にあるサポート・取り組みや場所・医療・福祉施設について調べ、マップを作成	
	3	・静岡市社会福祉協議会「はーとびあ清水見学演習」	
	4		
	5	・マップの施設数か所を実際に訪問またはインタビューなどを行う	各グループで訪問・インタビューの時間・内容・調整を施設と行います。
	6		
	7		
	8	上記のまとめ・GW	
	9	・地域にある「暮らし」を支える取り組みについて発表	インタビュー・訪問したことでの学びを発表します。
	10		
	11	・地域・在宅看護の実習に向けてマップを活用して、各自の実習場所の共有を行う	11・12は11月にある地域・在宅看護論実習Ⅰに向けて、各グループで作成したマップなども活用して、演習と実習と繋げていく。
	12		
	13	・地域・在宅看護実習での学びの振り返りと情報共有	13～16は、11月の地域・在宅看護論実習Ⅰ前半の学びのまとめと情報共有の時間となっています。お互いの学びと情報の共有を行います。
	14		
	15		
	16		
	17	・地域・在宅看護実習での学びの共有と発表	17～20は地域・在宅看護論実習での学びをグループワークと発表を行います
	18		
	19		
	20		
	21	・地域の施設の一つである「病院」での暮らしを知る	21・22は、基礎看護学実習Ⅰで出会った患者の生活を想起し、演習や実習の学びと療養生活について考えます。
	22		
	23	まとめ	
履修条件	暮らしのしぐみ・静岡地域学と地域・在宅看護論の履修が進んでいること		
評価方法	出席日数 授業態度（演習への参加態度も含む） 課題提出状況 ポートフォリオ		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 実習要綱		
参考書			
備考	71：精神的安寧を保つケア 65：安全な療養環境の整備		

看護学科

講義要綱

科目	成人看護学概論	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 和田 愛				
授業目的	成人看護の対象を理解し、健康支援をするための基礎を学ぶ。				
到達目標	1 成人看護の対象である成人（大人）について、成長・発達過程からみた成人の特徴を理解する。 2 成人期の健康を支援する理論の活用について知る。 3 成人の健康の動向について統計を読み解く。 4 成人の保健・医療・福祉政策について知り健康支援を考える。				

授業概要	<p>成人期の対象の理解のために、まずは自分自身や自分の周囲の成人期の人を手掛かりに生活を営む様子を調べ成人期にはどのような身体的・心理精神的、社会的な特徴を知る。成人期の社会生活や暮らしに目を向け、働くこと、家族関係、生活スタイルなどの実状を知る。</p> <p>様々な統計から、成人期の健康問題を知る。そのような成人期の健康を守るための保健・医療・福祉政策を調べ、成人期の対象が地域社会で健康状態を維持しながら生きられることを支援できるように基礎的な知識を学ぶ。</p>	
授業方法	講義	
授業展開	内容	準備等
	1 成人の生活と健康	～ p 87
	2 成人への看護アプローチの基本	p 92～158
	3 成人の健康レベルや状態に対応した看護①	p 164～236
	4 成人の健康レベルや状態に対応した看護②	p 240～238
	5 成人の健康レベルや状態に対応した看護 ③ 慢性病とともに生きる人を支える看護	p 240～264
	6 成人の健康レベルや状態に対応した看護 ④	p 266～
	7 成人期を生きる身近な人の健康を支援するための提案	
8 終了試験		
履修条件	計画的に予習し臨むこと。	
評価方法	日頃から健康問題や健康支援に関する新聞記事に注目し集めておく。	
テキスト	終了試験50点・課題50点・予習内容のワークの点数を合算する。	
参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院	
備考	国民衛生の動向2022/2023 厚生統計協会 健康づくり対策に関する新聞記事	

看護学科

講義要綱

科目	老年看護学概論	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間	15	必修区分	必修
担当者	看護師 今井 弓珠				
授業目的	<p>少子高齢化が加速しているわが国において、老年看護に求められる期待は大きく、看護実践の対象者の多くを占めている。そこに関わる私たちは、老年期の対象理解は必修である。老年看護の意味を深めながら、住み慣れた地域で暮らす生活の視点を学び実践に繋げていきたい。また、自分自身の老いを体験する前に、未知なる老いの世界を探索し考えることから、未知なる自己の人生をも思考し発展させ深めたい。</p>				
	1. ライフサイクルの中で老年期をとらえ、老年期にある対象の身体的・心理的・				

到達目標	社会的機能の特徴と生活を関連づけて理解する。 2. 高齢者が地域で暮らしていくための支援を理解する 3. 高齢者の課題を理解し、高齢社会の中で求められている老年看護の目標・役割を理解する。
授業概要	・自分を取り巻く社会から、いずれ皆さんも往く道としての老年期をより豊かに迎えられるように、自らの周を改めて見つめ自分のこととして考えてみよう。 ・日頃から政策や社会の時事に関心をもって、現代の高齢社会について見聞し、実践的な看護について考えてみよう。 (高齢者・生活・生命・医療倫理について、新聞・テレビの情報に積極的に目を向けよう。)

授業方法	講義・グループワーク ①地域・在宅看護論実習の体験から高齢者とのコミュニケーションを振り返る ②介護福祉士、社会福祉士を目指す学生と関わり互いの役割紹介 演習 ①高齢者疑似体験
------	---

回	講義内容	演習・ワーク
1・2	1. 老年期にある対象の理解 1) ライフサイクルとしての老年期の理解 2) 加齢による身体的・心理的・社会的機能の特徴(衰退と成熟)が日常生活に及ぼす影響 3) 高齢者とのコミュニケーション	演習 ①高齢者疑似体験
3・4	2. 高齢者が地域で暮らしていくための支援の理解 1) 高齢者の生活と家族 2) 高齢者の暮らしの支援	GW: 高齢者とのコミュニケーションの振り返り(地域・在宅看護論実習の体験より)
5・6	3. 老年看護の目標・役割の理解 1) 高齢者の生活の質を考えた看護 2) 高齢者の在宅での生活を支える看護 3) 高齢者の保健医療福祉施設における看護 4) 老年看護における倫理的課題	
7	4. 高齢者を取り巻く多職種を理解・役割(看護師・介護福祉士・社会福祉士)	介護福祉士・社会福祉士を目指す学生と関わり、互いの役割紹介
8	終了試験	

履修条件	老年期という自分が体験していない未知の世界の学びです。講義内容を意識して、各自で事前学習して授業に臨むことを希望します。また、体調管理して意欲的に参加してください。
------	--

評価方法	①筆記試験 ②課題の提出状況 ③GWの評価(資料作成・発表) ④授業への参加状況
参考書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 (財)厚生統計協会

備考	理論・概念 サクセスフルエイジング、コンフォート理論、 ストレングスモデル、エンパワメント理論 制度 介護保険制度、高齢者医療確保法、生活保護
----	---

看護学科 講義要綱

科目	精神看護学概論	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間	30	必修区分	必修
担当者	看護師 坂本 希世子(8) 精神保健福祉士 酒井田 愛香(20) 前林 勝弥(2)				
授業目的	精神看護学の基盤となる「こころ」を様々な視点から理解する。				

到達目標	1 現代社会におけるこころの健康の現状を知り精神看護の必要性を学ぶ。 2 こころの健康について学び、看護師の役割を理解する。 3 精神保健について理解し、精神保健活動について学ぶ。 4 こころを病む人を取り巻く社会の現状と歴史を知り必要な支援について考える。		
授業概要	本講義においては、主体的なコミュニケーションや学びを大切にす。したがって、積極的で対話的な参加態度を希望する。自己理解や臨床に生かせる知識習得のため、講義中いくつかの心理検査を実施予定。		
授業方法			
授業展開	回数	内容	準備等
	1	開講オリエンテーション こころとは何か、こころの健康とは何か考えてみよう	坂本希世子
	2	こころのしくみと発達	酒井田愛香
	3	心の仕組みとパーソナリティ、環境	
	4	演習 自己理解のための心理検査1 (質問紙法)	
	5	ストレスのメカニズム 演習	
	6	ストレスマネジメント 演習 認知行動療法	
	7	演習 リラクゼーション法： マインドフルネス・筋弛緩訓練・自律訓練法・呼吸法	
	8	自己理解のための心理検査2 (投影法) バウムテスト・雨の中の私	
	9	家族のシステムとコミュニケーション/演習 動的家族画	
	10	グループ (集団) のとらえ方	
	11	カウンセリングのエッセンス/演習 ロールプレイ	
	12	生活の場と精神保健、静岡市の精神保健の現状	前林勝弥
	13	ケアの人間関係 自分について知ること、相手を知ろうとすること	坂本希世子
	14	ケアの人間関係 関係性を理解すること (演習)	
15	終了試験		
履修条件	教科書をよく読んで臨むこと		
評価方法	講義の出席状況・レポート・筆記試験を総合的に評価する。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 ・補助教材や関連資料も使用するが、各講義において配布する。		
参考書	人間対人間の看護 ジョイス・トラベルビー 医学書院		
備考			

